

N-2 石巻市牡鹿町新山浜地区 2012年1月11日(水)

報告者名	山口未花子	被調査者生年	① 1950年(男)、② 57才(女)
調査者名	山口未花子	被調査者属性	① 区長、漁師、② 話者①の妻、主婦
補助調査者	兼城 糸絵		

正月

正月は7日まで。以前は正月が終わる7日頃に「どんと祭」を行っていた。ただし、その前には家々でお寺などに納めていた、他の場所でやっているのを見て、最近始められた(10年ぐらい前から?)。でも最近になって、ビニール袋に入ったごみなどを燃やす人が出来てきたので、やらなくなった。それに今年は燃やす場所がある神社がゴミだらけでまだ片づけをしていなかったなので各自浜に持って行って燃やしていた。

正月には門松、ゆ縄、神棚の飾りを作る(恵比寿様のモチーフの笹飾りなど)。ゆ縄や神棚の飾りは7日に下ろすのだが、もし「変わりごと」(人が亡くなるとかイレギュラーなことを指すと思われる)が起きたら、早めにおろす。松飾りを下ろすのは男性の役目である。神棚関係の世話も男性が行っていた。女性がやることもあったが、家に男性がいたら男性に頼む。今年の正月は村の中で不幸があったので、特に何もしてない(?)。

獅子舞

お正月には2日かけて獅子舞が各家をまるものだった。日程は年ごとに決めるので、2日と3日、あるいは4日と5日、5日と6日という年もあった。年によって日にちは違うが、大体5日と6日ではないか。以前、魚を初売りに間に合わせたいのではやく漁をしたいという声にこたえて、1月1日にした時もある。

1日目は午後から始めて、夜遅くまで行う。2日目は午前中から始めて、大体昼3時ぐらいには終了する。舞手は村の男たちで、さらに横笛を吹く人が2、3人、太鼓をたたく者もいる。それらのメンバーからなる一団が、新山浜は2つにわかれていて(具体的な名称は不明)、家ごとに回っていく。家に寄る度に出される御馳走や酒を飲食し、寄付金をもらう。寄付金は1万~2万ほどを家にいるひとが一人ずつ袋に入れて渡す。縁起のいい数字になるようにすることが求められる。例えば4や9という数字は避けられるべき。4万円だったら3千円たす、というふうにして。一家で大体、3、4万円、7万円くらいになることも。

獅子舞は消防団(事業団?)が取り仕切っており、集められた寄付金は消防団の活動費になる。獅子舞に同行する人も含めて12人ぐらいが集落中を回る。子ども(主に男の子だが最近は女の子も)たちは「ししはやし」を務め、行く先々からお菓子をもらったりしていた。でも、今は中学生が2人しかいない。ひとりは中2で、もうひとりが中3。高校生になってしまうと、「ししはやし」には参加できないらしい。

家で獅子舞を迎える側も様々な準備をする。寄付金を準備する場合、世帯の合計金額が縁起のいい数字になるようにしている。また、獅子舞の一行をもてなすための料理も用意する。その人たちに食べてもらいたいから、主婦は他の家庭で出なさそうなメニューを一生懸命考えているのだという。子どもたちからも「あの家では〇〇が出たよ!」などと報告してきたりする。

獅子頭の色は黒。牡鹿半島の表浜は赤で、裏浜の新山と泊は黒。新山のものは松(?)で作られているためとても重い。

いつのころからか、人数も減ったので小正月にコミュニティーセンターで獅子舞を回すことにしていたが、それさえも去年から実施していない。

小正月

2月10日には小正月をやる。

家の前に飾ってある門松にごはんをあげる。おかずやごはんなどを、実際に食べさせるようにしてあげる。これをみた孫たちは興味津々な様子だったという。

人形様

今年の人形様の実施については、16日に行われる総会で話し合って決める。やはり人がいなくなっているので今年は作ったりできる人が少ないのではないかと。身内に不幸があった場合はお人形様を作ることができない。話者①もイトコがなくなっている。家のものではないから大丈夫と言えだいたいじょうぶだが、嫌がる人もいる。それに、人形様をお参りさせる神社もまだ直していない。でも今まで生きてきた中で、人形様が行われなかったことは一度もなかった。→17日に確認をとったところ、今年も実施することになった。

お人形様に刺す団子は、子どもと孫の分と神様の分を作る。でも、子どもたちがわざわざ戻ってきて参加する訳ではない。でも、その頃になると気になるのだろうね、子どもたちから「私たちの分も団子を作っておいて」と電話がかかってきたりする。

人形様は、隣の部落との境界まで行っておいてくるが、最近では団子を持って帰ってくる人がいる。区長さんはその場所まで行ったことがないという。(神社の奥の山の中らしい)

人形様を持っていく人は決まっている(男3人)。係を指名して決めている訳ではないけど、雰囲気ですらなっている。自分がやるものだと思ってる人がちゃんとして、毎年そうする。お人形様に関しては万事そのような感じで、始まる頃になるとみんな自然と集まって作業をして、13時からやるといっても、朝からみんな集まって早くに始まることが多い。

人形様が通る道は、紙幣(幣束の紙?)を道路の脇にさしていく。それは区長が手作りしているもので、パターンがとっておいてある。だから、区長が人形様作りを出来ないとすごく困る。

「お年寄りの会」

2月28日には60歳以上の老人が集まってお年寄りの会、御苦労様の会を開く。神様を拝み、飲んだり食べたりする。昔は必ず着物を着て参加したものである。昔はこういう機会でないとお酒も食べ物も十分なかったから、楽しみだった。

・盆

送り火と迎え火を両方行う。以前は木に火をつけていたが、それだとやはり危ないということもあってずっとついてなくてはいけない。そこで最近は缶の中にオイルをいれて燃やしている。それは墓と家の前の2カ所にとす。どこの家もそれをやるので送り火の夜はとてもきれい。

その他（断片的に得られた情報）

- ・船に乗る人は、妊娠している女性が船に乗ったりするのを嫌う。他にも色々な決まりや験担ぎがある。そういうのは迷信だと言って気にしない人もいるが、実際に悪いことがおこったりする。
- ・年祝いは合同で行っていた。
- ・寄磯では、子どもが「大黒様」をする。でも、今は女の子が多いようで、女の子の参加も許可しているようだ。もともとは男の子しか参加できなかった。
- ・最近はいかなどを獲ってくれる人がいる。以下は沿岸で漁ができる。でも船がないと自分は漁はできない。自分はカレイの刺し網漁。（新山では）それぞれが別の魚を対象にしていた。組合じゃなく個人事業。だからそういうところには援助も一番最後に来るのではないか。でもせっかく海があるのに、船がないとなにも仕事が出来ない。」自分は漁師だから。
- ・鯨肉の炒め物、イカを茹でたもの、たこの刺身を出していただく。鯨は鮎川へ行って購入し、あとは近所からのおすそわけ。鯨はアクを抜かず、玉ねぎと一緒に醤油と酒と砂糖（またはみりん？）と生姜で味付けをしてある。イカもタコもそれ自体には味付けなし。そのほうが素材の味が残っていて美味しい。塩味だけで十分。鯨もアクとったら味がなくなる。